

発行——山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091

## 『九里学園高等学校』の 出発に当たって

校長 九里 廣志

「クリ学園高校ってどこさあんだ？」  
「俺しゃね」：男子バスケットボール部  
が初参加した「藤井・高野杯」の試合会  
場（県営体育館）で、私の耳に偶然入っ  
てきた学生の会話です。今まで「米女（ヨ

ネジョ）」で全国にも通用していた学校  
名が、男子の入学によって一般の人には  
なじみの無い、しかも読みにくい「クノ  
リ」という名称に変わったのですから、  
このような会話も当然です。でも、この  
置賜では多くの方が当然のように「ク  
ノリ」と読んでくださる伝統があり、特  
に「徹底した理念を持った教育の学校」  
という印象も付け加わります。これも同  
窓生の方々の活躍の成果であり、実にあ  
りたいことです。この名前が全国に通

用する日も近いと信じています。  
新校舎には、約六十年前の生徒さんた  
ちが植え、下草刈りをして育ててくださっ  
た杉の材木がふんだんに使われました。  
木の匂いも爽やかな、素敵な校舎です。  
杉を切り取った山に、今年入学した男子  
生徒たちが「桜」の記念植樹をしました。  
彼らが成人するころには、チラホラと花  
も咲き始めるかもしれません。万世地区  
の国道十三号線から、桜が咲き乱れる山  
を見つけたら、それが「九里の山」です。



見たい聞きたい

# 九里の男子生徒の現在

(S46年卒) (S52年卒)

レポーター：畠山みち子・高橋有子



教科教室に急ぐ生徒たち 二階モールにて

「ちょっと、今度女子高に男子も入んなど」「えー、ウソ」同窓生のみなさんは、二年前こんな会話をなされたのではないだろうか。

母校は、四月より校舎も新しくなり、校名も「九里学園高等学校」と改まり、男子五十五名が入学。新しいスタートを切りました。

私達同窓生にとって九里に男子が入学するなんて、青天の霹靂と言っても過言ではないほどのショッキングな出来事でした。

母校は、いったいどうなってしまったのだろうかという不安と、百年近くの間女子しかいなかった学校に入った男子は、どんな生活をしているのだろうかという興味を持って、私達は六月、母校を訪問してみました。



実験室

調理室

一年男子 英語の授業  
ボーデン先生と本田先生

文化財指定の懐かしい校舎から新校舎に足を踏み入れると、タイムスリップしたかのような錯覚を起しました。天井まで窓という明るい木造校舎は杉の香りでいっぱいです。旧校舎と新校舎は「モール」と呼ばれる広々とした中央通路でつながれています。モールの天井にデザインされた杉の横木や、廊下の腰板に使われている杉材は、六十年前我々の先輩が植えて下さったのを使ったものと同じでした。節の一つ一つにも味わいがあり歴史を感じさせられました。すべての人が快適に生活できるようにと、「バリアフリー」の校舎はゆるやかなスロープで結ばれ、エレベーターや障害者用トイレなど、細かな所にも配慮が見られます。現在車椅子の生徒も元気に通学しているそうです。教室の窓は「無双窓」というおもしろい形をしていてとても風通しがよく、心地よい風が通り抜けていきました。



ハワイ・プレパトリー・アカ  
デミーの学校にて 乗馬教室



木をふんだんに利用した廊下と  
無双窓



図書館

「九里学園の男子生徒は、入学するとすぐ、ハワイに行く」と巷のうわさになり、新聞の投書欄にもその意義を問われたハワイ研修。男子生徒にその感想を聞いてみました。研修先は、キラウエア火山で有名なハワイ島にあるプレパトリー・アカデミーという中学から高校までの学校だったそうです。

「高校での授業は大変だった」「初めて馬に乗ったが面白かった」「バスケットやサッカーの交流試合が楽しかった」「昼間は暑いのに朝晩はすごく寒かった」などなど、寮での六時起床とともにより充実した内容で、彼等にとっては無我夢中の十日間だったようです。



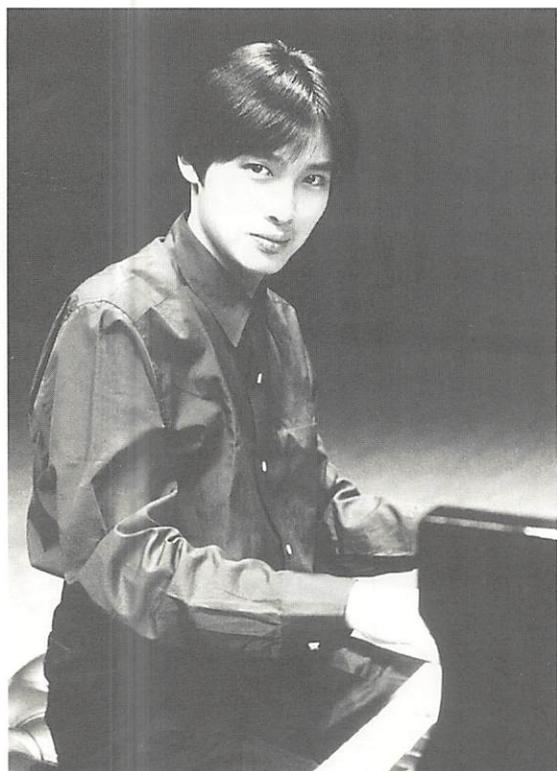
クラスは男女別々でホームルーム活動は「ハウス」と呼ばれる部屋で行われます。授業は「教科教室」で受けるので、生徒が時間割に合わせて教室を移動します。「移動が面倒くさい」という生徒の声も聞かれましたが、とても充実した楽しそうな授業風景でした。「男子が入ってどうですか」の質問に三年女子は、「なれなくて気を遣う」「男子がいるのが自然だ」「うれしい」などいろいろな意見を聞かせてくれました。一方男子はせっかく女子の多い高校に入ったのに、クラスも授業も男女別々でどうかと思ったら「女子がいない方が集中できるかも」「学校生活はとても楽しいし、先輩がいないので部活も好きなように出来る」一学期なので何もかも初めての事ばかり。自分達の力で新しい学校を造り上げて行こうという気迫が感じられました。

新しい歴史のページが開かれたような思いです。皆様もどうぞ母校を訪ねてみて下さい。

二階モールにて  
天井・腰板は学校の山の杉材



## 記念音楽会



(H10年卒)

## 鈴木 久子

記念音楽会は、今年同じ九里学園を卒業した友人と二人で聴きました。今回は、「近藤嘉宏」さんがメインの音楽会だということで、大変楽しみにしていた私達は、二時間も前に待ち合わせをして音楽会に向かったのです。このワクワクした期待とは、私達が二年生のときの音楽会で、彼の弾く音に心酔した思い出があるからです。会場は、開演が近づくと、ほぼ満席になり、あちらこちらで、先輩や後輩、先生方の話し声が聞こえてきました。

## 近藤嘉宏だけがもつ

## 音を聴きました

近藤さんが演奏した曲は、ショパンの「ノクターン」「エチュード(別れの曲)」「幻想即興曲」などで、どれもポピュラーな名曲ばかりでした。しかし、彼の弾いたピアノの音は、今まで聴いたことのあるどのピアノの音ともちがいが、確かに「近藤嘉宏」だけの音がしました。聴衆をひきつける力とは、一人一人が演奏者から話しかけられているような気になることのようにです。

「幻想即興曲」は、男性ピアノソナタではの力強さがあり、初めの一音に圧倒され、そして心をぐっと掴まれたような感じがしました。これと反対に、「亜麻色の髪の乙女」は、とても柔らかく、繊細な音色なのですが、一音一音に秘めた想いがあるような印象を受けました。

この演奏会の体験は、「私の宝」という索引をつけて、心にしまっておきたいと思っています。

松本美和子  
リサイタル

今年の音楽会(9/13)は、「蝶々夫人」で有名なあの松本美和子(ソプラノ)のリサイタルです。



次世代に残したい日本の歌が第一部です。是非、世界のプリマドンナの歌を聴いて下さい。

それぞれの  
「一本の道」

同窓生の集いで叙勲を祝う



六月二十七日(日)九里学園センターホールにて同窓会総会が行われました。新校舎の見学後、会場をサンルート米沢に移して、この春の叙勲を受けられた先生方を祝う会がありました。

九里茂三先生は、勲三等瑞宝章、私学教育の功労ということ。笹原定純先生は、我校で書道の先生をなされ、その後検察庁事務官として長くお務めになられ、その功労ということで勲五等雙光旭日章、我同窓会長竹田さんは、全国農協婦人部の会長として女性の地位の向上のため活躍してこられました。その功労に対して勲五等宝冠章を受けられました。

ご挨拶の中では、共通して九里精神が脈うっていることを強調されました。そして、かみしめるような感謝のことに胸つまるものがありました。「魂きはる一本の道」を歩むことの意味を、同窓生は教えられたように思います。

# 元氣一番 愛嬌二一番



鐘水 孝



(S43年卒)  
鐘水 美恵子

御夫妻

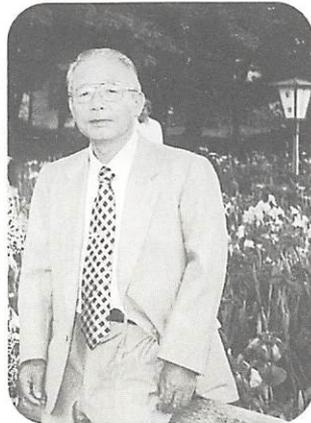
うちの会社は、自動車販売と自動車整備そして保険の三つの部門で仕事をしている。妻は、保険部門を担当しており、積極的でひたむきな営業努力、そして女性特有の、きめ細やかなアフターサービスで、お客様を増やしている。益正月であろうと夜中であろうと、悪天候の中でも、すぐに現場に向かう現場直行のサービスが、契約をいただいている皆様には、すこぶる評判がいいようである。

妻は、いつも「うちは母子家庭だ」と言いふらしているようであるが、そのとおり、私はほとんど家にいない。しかし、私の事は無視して仕事に没頭できる分、幸いと思っている節もある。

妻は、料理の腕前も超はつきないが一流だと思っている。手際が良く、実に早い。また、友達を作るのが得意で、人の話を聞くのはもつと得意。悩みごとなどの人生相談をしょっちゅうやっているが、「ないしょ」と言われた事は、私にも決して話さない口の堅さを持ち合わせている。人には好かれるタイプで、いつもニコニコ元気がいい。美人じゃな

ネクタイのはずれて三年野路うらら  
これが現在の心境と生活です。先日の月例会に投句したのですが、誰からも支持されませんでした。しかし、作者には自分の現在の有様を忠実に表現できたとの強い自負があるのです。

## 野路うらら



## 伊藤 勉 (元国語の先生)

我が愛嬌がある。多感で、ドラマを見ては泣き、感動する話を聞いては、涙ぐみ時として、想像もつかないくらい激怒する一面を私に披露する。

二十八年前、子猫のように嫁いできた娘が、年月と共に虎のように成長したのは、私のせいではないのだが、これからのどのぐらい強くなるのかちよつと怖くもある。

ちなみに妻は昭和二十五年、虎年の生まれである。

日中の散歩は時間を気にしない為か、いろ／＼な発見があります。雪の消えたばかりの農道に咲く「オドリコソウ」「オオイヌノフグリ」「ミドリハコベ」など、持参の図鑑で確かめた時の喜びは少年の昔に帰ったような気分です。また、晩秋から冬季の雑木林、落葉した樹木の枝振りの美しさに何十回足を停めたことか。人間さえ手を加えなければ、樹木はそれぞれに美しく自分を主張し、逞しく生きていくものなんです。

真向に輝く吾妻路のとう  
散歩の道で誰よりも早く美味し  
い春の恵みを頂戴しました。

あ、無情今年も来たる櫛の春  
鉄道防雪林や雑木林の櫛の木が、  
その多くは途中から切取られ、そ  
れを免がれ、漸く芽吹いたものは、  
容赦なく挽ぎ取られます。先日、露採り  
に山に入りました。そこには初夏の空に  
大きく葉を伸ばした櫛の木が何本もあっ  
たのです。思わず嬉しくなつて。

櫛の芽や受難の時季を長らへて  
雪国の新緑は美しい。色とりどりの樹  
木の芽吹きは、多様な個性を秘めた子供  
達と通うものかも知れません。

とりどりの樹木の芽吹きや登校子

# 皆様の御協力を

## お願いいたします

同窓会長

竹田カツ

同窓会の皆様には、お変わりもなくお元気でお過ごしのこととお察し致しております。母校九里学園も、多くの方々のご努力で、木の香漂うすばらしい新校舎が出来あがりました。同窓生の方々の植林した杉材が多く使用されておりますので、何とも言えぬ温かさとその昔の思いが伝わってくる様な校舎です。時をかえす事が出来たら、もう一度学びたい気持ちでいっぱいです。さて、同窓会としても百周年の記念事業を成功させるために、皆様にご寄付のお願いをしましたが、現在二、四〇〇万円、人数にして千五百人の方にご協力いただきました。心から厚く感謝申し上げます。まだ日数は有りますが、お忘れになっていたり、振込用紙を紛失なされた方もおありかと思っておりますので、再度お願いをする事に致しましたので、お友達にもお声をかけて下さいませようよろしくお願い致します。同窓生一人お一人の熱い気持ちの結集が、目的達成につながると思っておりますので、お力をお貸し下さる様お願い致します。二十一世紀に向かって、大きくはばたく九里学園高等学校の限りない発展を祈念致し、百周年のお祝いには、皆様とお会い出来るのを楽しみにしております。



### 松島にて

S24年卒い組

平成十年十月二十九、三十日と三年い組のクラス会を、日本三景の一つ松島のホテル一の坊で行いました。相変わらずお若い笹原先生をお迎えして十二名の集いとなりました。眺望絶景の部屋に寛ぎ一瞬五十年前の女

## 100人の学年会

S42年卒



学年会のいいところは、多数の先生や他のクラスの人と会えることです。この会も他のクラスの人と一杯のコーヒを飲んだことから始まったのです。波乱に満ちた準備会をすること五回、ようやく、十一月八日の当日がきました。会場には、輝きの昔乙女が百名集いました。

永沢(旧姓)先生が遠く鳥取県から馳せ参じて下さったこと、そして「高校三年生」や「校歌」を三十年ぶりでみんなで歌ったことなど、心満たされる会になりました。このパワーでいくと、我学年はみんな長生きしそうです。

(大久保記)



## クラス会

学生に戻り話に花が咲きました。翌日は、瑞巖寺に詣で楽しい会でした。九里学園が百周年を迎えること、そして男子生徒が入ること、校舎新築のこと、そのためには是非御協力いただきたいというお願いも心を込めて伝えました。

(行方記)

## 編集後記

今回の45号は、全同窓生にお届けしたいが、発行月が変更となり7月になりました。新しくなった学校をくまなく見せていたところを「百周年」取材しました。是非木下先生の一見に如かず、是非木下先生をお訪ね下さい。



これが新しい校章です。

●今年の記念音楽会は、世界的プリマドンナ「松本美和子」のリサイタルです。チケットはお早めに係の方か、事務局からお求め下さい。

●母校の百周年を同窓生みんなで祝いいたいと思います。そのための寄付(一口一万円)をお願いしております。どうか御理解の上、御協力を賜りますようお願いいたします。

